



見通し・振り返りの学習活動に取り組みやすい内容構成

内容のまとまりごとの見通し・振り返りの学習場面をいっそう充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現しやすい構成にしました。一連の学習活動を通じて、より深い理解を促すことができます。

1 章・節の学習を見通す「導入ページ」 p.48-49
章・節の学習を見通す導入ページ。新鮮な驚きを感じるような写真から生徒の興味・関心を喚起します。学習内容についてイメージを膨らませることができる写真中心のページで、学びのきっかけを作ります。

1 アジア州 学習テーマ アジアでは、なぜ経済が発展したのだろうか。

この節では、アジアのさまざまな地域の特色を地域ごとに大きくとらえながら学習を進めていきます。経済が発展していくことにより、暮らしにどのような変化があらわれたのでしょうか。多様なアジアの経済発展に着目して、アジアの特色を学習しましょう。

1 導入ページ

学習のまとめと表現 アジア州の学習を振り返って整理しよう

ワードチェック

- ① 次にあげたアジアで学習してきた言葉が説明できたら、□に印を入れよう。
- 植民地
- 発展途上国
- 季節風(モンスーン)
- アジアNIES(新興工業経済地域)
- 「一人っ子政策」
- 少数民族
- シルクロード
- 経済特区
- ブランテーション
- 東南アジア諸国連合(ASEAN)
- 穀倉地帯
- 情報通信技術(ICT)産業
- 産油国
- 石油輸出国機構(OPEC)
- レアメタル

4 学習のまとめと表現ページ

① ② ③ ④ ⑤

① ② ③ ④ ⑤

⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕

㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚

㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟

㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵

㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

学習のまとめと表現 65

学習のまとめと表現の流れ

ワードチェック

地図を使って確かめよう

表現しよう

意見を交換しよう

4 章・節の学習を振り返る「学習のまとめと表現ページ」 p.65
章・節の最後に設けられて、学習内容が身についたかをチェックできると同時に、基礎・基本の定着が図れます。学習の振り返りとして、語句のチェック、地図上の場所や位置の確認、自分の言葉でまとめて表現する活動、意見を交換する活動を行い、段階的に学習を深めていくことができます。



5 変わる産業と貿易
学習課題 東南アジア各国の人々の暮らし
見通しを示す「学習課題」
これから1時間の学習で何について追究していくのかを明確にします。

5 変わる産業と貿易 結びつきを強める東南アジア

学習課題 東南アジア各国の人々の暮らしは、経済発展によってどのように変わってきたのでしょうか。

東南アジアの産業と貿易

東南アジアの輸出の変化

東南アジアの輸出の変化

2 本時ページ

シンガポールはいま 熱帯にある都市国家

シンガポールは、東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟国の中で第一の経済力を持ち、東南アジアの貿易・金融の拠点として、世界から注目を集めています。世界の人々や企業が注目するシンガポールの魅力とは何か、考えてみましょう。

世界都市シンガポール

赤道に近い国シンガポールは、東京23区と同じくらい面積の国土に約580万人(2018年)が暮らす都市国家です。東南アジアの貿易・金融の拠点として成長を続け、国民一人当たりの国内総生産(GDP)は日本を上回っています。イギリスや東南アジア諸国のみならず、世界の諸地域と緊密な関係を維持してきた結果、世界の他の都市に比べて人口規模は小さいものの、世界から注目される世界都市へと成長しました。2018年6月には、シンガポール南部のセントーサ島のホテルで、史上初のアメリカ合衆国と朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の首脳会談が開催され、シンガポールの存在感を示すとともに国際政治上でも世界の注目を集めました。

空港がもたらす発展

シンガポールの玄関口であるチャンギ国際空港は、東南アジアの拠点となる空港です。世界の多くの都市と航空路をつなぐが、設備・サービスの質の高さから世界有数の快速な空港として、多くのビジネスマンや観光客の注目を集めています。人が多く集まり、産業が集積している都市には、さらに多くの人や企業を引き寄せる吸引力があるため、国や都市の発展にはこのような空港が重要な鍵となります。

観光大国

シンガポールには、治安のよさや、移民社会特有のエキゾチックな異文化体験といった多様な魅力があり、外国人観光客が増加しています。この外国人観光客の増加に大きく貢献したのが、統合型リゾート(UR)とよばれる、カジノを付設した総合レジャー施設です。マリーナベイ・サンズやリゾート・ワールド・セントーサなどは多くの国の観光産業のモデルとなっており、今後も多くの企業と連携した観光発展が期待できると、世界から注目が集まっています。

3 特設ページ

シンガポールはいま 熱帯にある都市国家

シンガポールは、東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟国の中で第一の経済力を持ち、東南アジアの貿易・金融の拠点として、世界から注目を集めています。世界の人々や企業が注目するシンガポールの魅力とは何か、考えてみましょう。

世界都市シンガポール

赤道に近い国シンガポールは、東京23区と同じくらい面積の国土に約580万人(2018年)が暮らす都市国家です。東南アジアの貿易・金融の拠点として成長を続け、国民一人当たりの国内総生産(GDP)は日本を上回っています。イギリスや東南アジア諸国のみならず、世界の諸地域と緊密な関係を維持してきた結果、世界の他の都市に比べて人口規模は小さいものの、世界から注目される世界都市へと成長しました。2018年6月には、シンガポール南部のセントーサ島のホテルで、史上初のアメリカ合衆国と朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の首脳会談が開催され、シンガポールの存在感を示すとともに国際政治上でも世界の注目を集めました。

空港がもたらす発展

シンガポールの玄関口であるチャンギ国際空港は、東南アジアの拠点となる空港です。世界の多くの都市と航空路をつなぐが、設備・サービスの質の高さから世界有数の快速な空港として、多くのビジネスマンや観光客の注目を集めています。人が多く集まり、産業が集積している都市には、さらに多くの人や企業を引き寄せる吸引力があるため、国や都市の発展にはこのような空港が重要な鍵となります。

観光大国

シンガポールには、治安のよさや、移民社会特有のエキゾチックな異文化体験といった多様な魅力があり、外国人観光客が増加しています。この外国人観光客の増加に大きく貢献したのが、統合型リゾート(UR)とよばれる、カジノを付設した総合レジャー施設です。マリーナベイ・サンズやリゾート・ワールド・セントーサなどは多くの国の観光産業のモデルとなっており、今後も多くの企業と連携した観光発展が期待できると、世界から注目が集まっています。

3 特設ページ

シンガポールはいま 熱帯にある都市国家

シンガポールは、東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟国の中で第一の経済力を持ち、東南アジアの貿易・金融の拠点として、世界から注目を集めています。世界の人々や企業が注目するシンガポールの魅力とは何か、考えてみましょう。

世界都市シンガポール

赤道に近い国シンガポールは、東京23区と同じくらい面積の国土に約580万人(2018年)が暮らす都市国家です。東南アジアの貿易・金融の拠点として成長を続け、国民一人当たりの国内総生産(GDP)は日本を上回っています。イギリスや東南アジア諸国のみならず、世界の諸地域と緊密な関係を維持してきた結果、世界の他の都市に比べて人口規模は小さいものの、世界から注目される世界都市へと成長しました。2018年6月には、シンガポール南部のセントーサ島のホテルで、史上初のアメリカ合衆国と朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の首脳会談が開催され、シンガポールの存在感を示すとともに国際政治上でも世界の注目を集めました。

空港がもたらす発展

シンガポールの玄関口であるチャンギ国際空港は、東南アジアの拠点となる空港です。世界の多くの都市と航空路をつなぐが、設備・サービスの質の高さから世界有数の快速な空港として、多くのビジネスマンや観光客の注目を集めています。人が多く集まり、産業が集積している都市には、さらに多くの人や企業を引き寄せる吸引力があるため、国や都市の発展にはこのような空港が重要な鍵となります。

観光大国

シンガポールには、治安のよさや、移民社会特有のエキゾチックな異文化体験といった多様な魅力があり、外国人観光客が増加しています。この外国人観光客の増加に大きく貢献したのが、統合型リゾート(UR)とよばれる、カジノを付設した総合レジャー施設です。マリーナベイ・サンズやリゾート・ワールド・セントーサなどは多くの国の観光産業のモデルとなっており、今後も多くの企業と連携した観光発展が期待できると、世界から注目が集まっています。

3 視点を改めて学習内容を捉えなおす「特設ページ」 p.64
世界地誌(世界の各州)や日本地誌(日本の7地方)の学習の事例を基に、さらに一歩進んで、今日的な課題に迫る特設ページを設けました。個人またはグループで学習を深めることができます。ページ最後に設けた「Q」も学習を深めるのに役立ちます。

確認! 東南アジア諸国連合の加えて、表にまとめよう。
表現! 資料4を参考に、輸出からどのように人々の暮らしが変化したか、まとめよう。
【確認】 本時で学習したことを確認し、整理します。
【表現】 学習したことを活用し、自分の言葉で表現することから、深い学びを導きます。

2 「本時ページ」 p.58-59
見開き2ページ=1時間の構成で、見開きごとに「学習課題」(学習の見通し)と、「確認/表現」(振り返り)を設け、生徒の主体的な学習を促します。

2 思考・判断・表現する場面を位置づけた、学習の流れがわかりやすいページ構成

見開き2ページ=1時間の授業展開で学習の見通しを立てやすい、本文と資料のバランスを考えた紙面です。生徒が自ら学べるよう、資料を読み解く手がかりも示しています。

1 1時間の学習を見通す「導入」

生徒の興味・関心を高め、学習のきっかけとなる写真・地図などを導入に位置づけました。**キャラクターの言葉**や「LOOK!」は、導入資料をサポートします。

キャラクターの言葉
導入資料の見方のヒントになります。

LOOK!
導入資料を解説することで、先生の授業を助け、生徒の自学自習にも役立ちます。

2 学習課題?

学習内容を自分事としてとらえる
タイトルには、学習内容についてイメージを膨らませる**主題**、学習事項を端的に示した**副題**を明示しました。**学習課題**では、この1時間の授業の見通しをわかりやすく示し、学習意欲を高めます。

資料番号 1, 2, 3...
本文と資料の関連を番号で示しています。本文を読みながら資料を結びつけることができ、学習が深まります。

1 ヨーロッパの国境の様子 (2017年ドイツ・フランス)

2 ヨーロッパの統合の進展
加盟国がどのように拡大したか、確認しましょう。

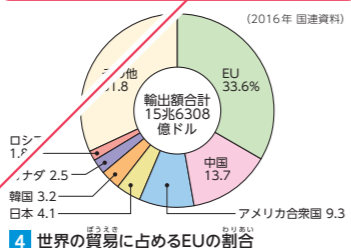
LOOK!
国境には通常は検問所があり、パスポートがない隣の国に行くことができません。しかし、ドイツとフランスの間では人々が自由に行き来しており、国境を越えて毎日通勤している人もいます。隣の国のスーパーの品物のほうが安い時には、気軽に買い物に出かけます。

2 ヨーロッパの統合とその課題 ▶ 人やものの自由な移動

学習課題? 統合が進むことで、ヨーロッパの人々の生活にどのような変化が起きているのでしょうか。

1958年	ヨーロッパ経済共同体(EEC)発足
1967年	ヨーロッパ共同体(EC)発足
1993年	ヨーロッパ単一市場発足 ヨーロッパ連合(EU)発足
1995年	域内での人の移動の自由化
1999年	単一通貨ユーロの導入
2002年	ユーロ紙幣・硬貨の流通開始
2004年	EU拡大、加盟25か国に
2007年	EU拡大、加盟27か国に
2013年	EU拡大、加盟28か国に
2016年	イギリスが国民投票によりEU離脱を選択

3 ヨーロッパの統合の歴史



国境を越えた結びつき
ヨーロッパは、20世紀中に二度の世界大戦の戦場となり、大きな被害を受けました。そのため、国どうしの争いを避け、国境を越えて経済的に協力する動きが強まりました。また、小さな国が多いヨーロッパでは、国どうしが経済的な結びつきを強め、アメリカ合衆国などの大国に対抗する必要があったため、1967年には西ヨーロッパの国々を中心にヨーロッパ共同体(EC)という組織がつくられました。さらに、経済的・政治的な統合をいっそう進めるために、ECは1993年に**ヨーロッパ連合(EU)**へと発展しました。

その後、東ヨーロッパの国々も加盟した結果、現在の加盟国は28か国(2018年)にまで増え、ヨーロッパの大半を占めるまでに拡大しています。EUの人口の規模も、アメリカ合衆国をはるかに上回る約5億人(2018年)に達しています。

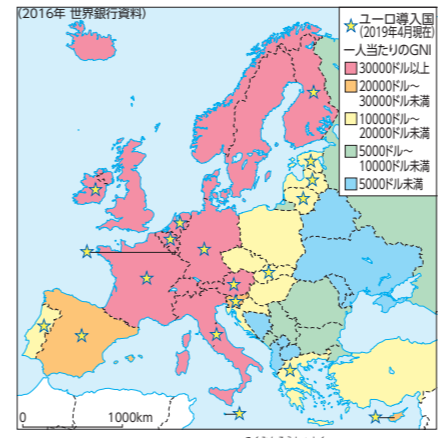
人々の生活の変化
通常は、どこの国でもパスポートがない国境を越えることができません。しかし、多くのEU加盟国の間ではパスポートなしで、仕事や買い物のために自

4 読み解こう

思考・判断・表現する力を育む「読み解こう」

本文の流れに即し、資料を丁寧に読み解きながら考察する学習を重視しました。写真・地図・グラフなどの多様な資料の読み解きについて、問いを手がかりに取り組みことができ、資料を活用して考え、まとめる力の養成に役立ちます。

- 読み解こう**
- EU加盟国とそれ以外の国の、一人当たり国民総所得の違いをまとめよう。
 - EU加盟国の中で、一人当たり国民総所得が低い国は、どの地域に多いか書き出して、気づくことをあげよう。



6 空港のパスポートチェック (2017年 ポルトガル・リスボン)
EU加盟国の人々には専用の出入口があり、検査を受けずに入国できるので、長い行列に並ぶ必要がありません。



由に国境を越えることができます。また、多くの国ではEUの共通の通貨である**ユーロ**が使えるため、国境を越えた買い物や旅行がとても便利になりました。さらに、加盟国からの輸入品にかかる税金をお互いになくしたことにより、EU内の貿易も活発になっています。

移動する人々と地域格差
西ヨーロッパほど経済的に豊かでない東ヨーロッパの国々が加盟したことにより、EUの中での経済的な地域格差が問題となっています。西ヨーロッパの先進国などから東ヨーロッパへと、企業が進出していますが、いまだに西ヨーロッパの国々との間には大きな所得の格差がみられ、高い賃金が得られる西ヨーロッパの国々に多くの人が働きに出ています。そのため、西ヨーロッパの主な都市では、東ヨーロッパなどから国内に流入する人々が増えたことにもともない、失業する人も多くなっており、EUの統合に反対する人々もいます。

地理の窓 イギリスのEU離脱問題
西ヨーロッパの先進国は、EUの活動のために多くの資金を出しています。それらの資金を使ってEUの中の開発が進んでいる国々への経済的な支援が行われてきました。そのため、これらの先進国では、自分たちの国の出したお金が他国のために使われることに反対する人々が増えています。例えば、イギリスでは2016年の国民投票でEUからの離脱が決まり、現在もEUとの間で離脱のための話し合いが続けられています。

- 読み解こう**
- EU加盟国とそれ以外の国の、一人当たり国民総所得の違いをまとめよう。
 - EU加盟国の中で、一人当たり国民総所得が低い国は、どの地域に多いか書き出して、気づくことをあげよう。



- 確認!** ヨーロッパで各国が協力する動きを強めた理由を書き出そう。
- 表現!** 統合が進み、国境を越えた交流が広がることについて、長所と短所をまとめよう。

5 本時の振り返りとして、②の学習課題と対応させた「確認」と「表現」

この時間で学習したことを基に、「確認」では基礎的な事項の確認と整理、「表現」では地理的事象や課題などに関する説明や話し合いなどの表現活動と、段階的に振り返りながらまとめることができ、学習が深まります。

確認!
本時の学習の中で、重要な語句などに着目しながら、基礎的な事柄をしっかりとおさえます。

表現!
本時の学習を振り返り、言葉で表現したり、対話したりすることで深い学びにつながります。

6 関連 地理だけでなく、歴史・公民との関連ページを示した「関連」

地理の学習内容について、他ページでの学習との関連を表示することはもちろん、歴史的分野・公民的分野についても関連する箇所を示しました。他分野との関連箇所を意識させることで、学びが繋がっていることに気づき、本時の学習がより深まります。(→本資料p.14~15参照)



3 資料の活用や「見方・考え方」を働かせた 学びを支援する学習コーナー

本時の学習を出発点とし、生徒の興味・関心が広がり、学習意欲が高まる学習コラムを設けました。地理的な技能が着実に定着し、「見方・考え方」を働かせた学びが身につきます。

第1編

全部で51もの 学習コラムが 本編を 支えます。

第1編		第2編	
地球番地、33番地	13	ケニアのバラはどこに行く?	87
パスポート(旅券)	19	南アフリカ共和国と	
標準時について考えよう	21	アパルトヘイト	89
日本の最南端をめぐる問題	23	カナダの森林	97
星のささやき	31	ラストベルトとよばれる地域	99
宗教をめぐる共存と対立	45	ハリケーン被害と差別	103
分断された朝鮮半島	53	アンデス山脈の恵み	
生活の変化	55	～高山都市と食文化	109
化する環境問題	57	サッカーとブラジル社会	111
に暮らす人々	59	サモアの人々の暮らし	121
グラデシユの社会問題	61	先住民と共に暮らす社会	123
アラビアのイスラム教徒	63	ツバルの人々の暮らしと危機	125
キリスト教に基づく文化	69	災害図上訓練で地域を知る	143
イギリスのEU離脱問題	71	地域区分して特色をみつけよう	149
ヨーロッパの食文化	73	日本で地震が多いのはなぜか	151
工業を支える交通ネットワーク	75	川の地形と液状化現象	159
原子力発電をめぐる各国の対応	77	釜石の津波防災教育の	
ウクライナ問題	79	取り組みに学ぼう	161
独立後の歩みと国づくりの努力	85	工夫してシラスを生活に生かす	179
		循環型農業を旨として	181
		地域おこし協力隊の活動	195
		世界文化遺産と観光都市	207
		震災の教訓に学ぶ	209
		千里ニュータウンの老朽化と対策	211
		生態系も危ない	213
		発展・変化してきた工業	221
		遠洋漁業の課題	223
		観光地の抱える課題	225
		東京湾の臨海部の再開発	235
		防災に強い都市を旨として	237
		情報を生かした産業	241
		東北地方の中心都市 仙台市	253
		残された自然を守る	263
		豊かな森が昆布を育てる	267
		映画の舞台になった北海道	269

▲ p.5 学習コラム(「地理の窓」ラインナップ)

地理の窓 東京湾の臨海部の再開発

東京湾の埋め立て地は、かつて工場や倉庫などとして利用されていましたが、都心に近く便利なため、1990年代後半からオフィスビルなどの建設が進みました。近年は、高層マンションの建設も次々に進められ、都心の職場に近いこれらのマンションに引っ越す人も増えています。また、2018年に卸売市場が築地から豊洲へ移転したほか、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックの多くの競技会場や選手村も臨海部に建設され、臨海部は再開発によって大きく変わりつつあります。



臨海部の東京オリンピック・パラリンピック選手村建設現場(2018年 東京都中央区)

位置や 広がり

▲ p.235

地理の窓 世界文化遺産と観光都市

京都は年間5000万人以上の観光客を集める観光都市で、外国人宿泊客数も350万人をこえています(2017年)。1994年、京都市・宇治市・大津市にある寺社などの歴史的建造物が「古都京都の文化財」として世界文化遺産に登録されました。京都は第二次世界大戦中も戦災による被害が少なく、今も残る古い街並みや文化財は、日本だけでなく世界から多くの観光客を招き入れています。近年、観光客に人気のある京町家を改装して、宿泊施設として再利用する動きなどもみられます。



外国からの観光客(2016年 京都府京都市)

地域

▲ p.207

地理の窓 … 興味・関心を喚起する、特色あるミニコラム

本文内容からさらに一歩進んで学びを掘り下げ、視点を変えたり視野を広げたりできる内容で、多面的・多角的な見方が身につく学習コラムです。

地理の技 … 生徒に身につけさせたい地図やグラフの扱い方など、まさに“技”を磨き、身につけます。

略地図の描き方、グラフの読み取り方、地形図の読み取り方などは、高校入試などでも役立てることができる技能です。

地理の技 地図やグラフなどの扱い方を学習するコーナーです。

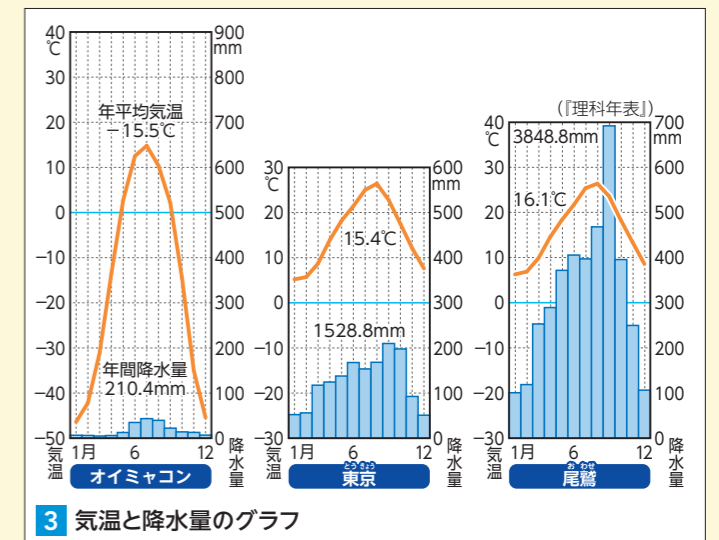
世界の略地図を描いてみよう①	11	統計資料を使ってみよう	17	地形図から断面図をつくろう	141
テープを使って地球儀上で		日本の略地図を描いてみよう	27	新旧の地形図を比べよう	141
方位と距離を確かめよう	14	気温と降水量の			
世界の略地図を描いてみよう②	15	グラフを読み取ろう	31		

▲ p.5 学習コラム(「地理の技」ラインナップ)

地理の技 気温と降水量のグラフを読み取ろう

◆気温と降水量のグラフは、月ごとの平均気温を示した折れ線グラフと、月ごとの平均降水量を示した棒グラフからなっています。気温は左側の目盛り(単位:℃)で、降水量は右側の目盛り(単位:mm)から読み取ります。

- ◆二つの都市の気候の特徴を読み取ってみましょう。
- ①平均気温(折れ線グラフ)を読み取ろう。
 - (1) 気温が最も高い月、低い月を確かめる。
 - (2) 一年を通じ、気温が高い時期、低い時期を確かめる。
- ②平均降水量(棒グラフ)を読み取ろう。
 - (1) 降水量が最も多い月、少ない月を確かめる。
 - (2) 一年を通じ、降水量が多い時期、少ない時期を確かめる。
- ③グラフ全体から変化を読み取ろう。例。季節の変化はあるのか、ないのか。
- ④観測した地点がどこにあるのか、地図帳で確かめよう。例。(2か所を比較する場合)どちらがより北に位置しているか。



3 気温と降水量のグラフ

▲ p.31

3 地理的な見方・考え方

◆地理的分野の学習では、次のようなことに気をつけて学習を進めていきましょう。

- ★位置や広がり(分布) 「どこに位置しているか」「どのように広がっているか」
- ★場所 「どのような場所なのか」
- ★自然環境との関わり 「そこで生活することは、まわりの自然環境からどのような影響を受けているか」「そこで生活することは、まわりの自然環境にどのような影響を与えているか」
- ★結びつき 「そこは、他の場所とどのような関係をもっているのか」「なぜ、そのような結びつきをしているのか」
- ★地域 「その地域は、どのような特徴があるのか」「この地域と他の地域ではどこが異なっているのか」「どのような地域にすべきか」

★地理的な見方・考え方

学習を進めていく際には、左に示した、
・「位置や広がり」
・「場所」
・「自然環境との関わり」
・「結びつき」
・「地域」
を意識しながら学習を進めていきます。

◀ p. IV